

## 2024年「冒険学校むらまつりキャンプ」報告

今年も村長をやらせていただきました 鈴木英雄（自然文化誌研究会理事）

今年も5月3日から5日までの2泊3日で、小菅村のいつものキャンプ場でキャンプを実施しました。この時期のキャンプは親子での参加を認めています。コロナ明けの昨年の参加者は3組の親子（大人4人）を含めた総勢19名でしたが、今回は8組の親子（大人11人子供12人）と単独参加の子供11名の参加者総勢34人というたくさんの参加者に恵まれました。子供たちはみんな仲良しで、はじめて会った子供たちでもまるで兄弟のよう。スタッフで来てくれた方は高校1年生から大ベテランまで、総勢35名。実に充実したキャンプになりました。

たくさんの参加者とスタッフで、チーム台所とチーム車両には苦勞を掛けました。よく頑張ってくれました。



コロナの間、ずっとできなかった源流祭りが今年やっと再開され、会場の広場には多くの出店やパフォーマンスでにぎわいが戻ってきました。私たちも昼間は源流祭りに繰り出し、現地のグルメを堪能しました。運営面では多くの人出の中で迷子になることが心配だったので、子供達にはマンツーマンで学生のスタッフに随行してもらうことにしました。行くときも一緒、お祭り広場では常に一緒、帰る時も一緒ということにしました。大人の皆さんにも、子供たちの心配を減らして、自由に楽しんでもらうことができました。お祭りから帰ってくれば、天気良くて昼は暑いくらいでしたから、ためらいなく川で遊びました。川の水温に入る前に計ってみました。11.9°Cでした。とても冷たいです。長くは入っていただけませんから、川からあがれば、五右衛門風呂に入ります。焚火もします。焚火の中に竹を投げ込んで、爆発音を楽しみます。山に山菜をとりにいきました。わらびとヨモギと三つ葉とクレソンと雪ノ下がたくさんとれました。おひたしや

てんぷらやヨモギ餅になりました。キャンプ場で木工作や金属加工をしました。



夜は役場の上のヘリポートまで行って星空観察をしました。よく晴れて、しかも今年は新月でしたから、星や星座が良く見えました。天体望遠鏡も用意したので、暗くて見えないかに座の星団や、北斗七星の二重星を観察しました。



また源流祭りでは、4日の夜、花火が上がりました。コロナ前のような大規模なお松焼や山伏のパフォーマンス、和太鼓の演奏は行われませんでした。花火の時間も19時ちょうどから19時15分までのわずか15分間だけ。したがって多くの観光客が集まるということはありませんでした。以前は河原へ降りて堤防の石段に腰かけて花火をみていたのですが、今回はなぜか堤防の内側から河原は立ち入り禁止になっていて、石段に腰かけてということができませんでした。花火は堤防の上か、小菅川にかかる橋の上から見ます。コロナの前と後で変わった部分はありますが、迫力のある花火は十分に楽しめるものでした。



キャンプ最終日は小菅の湯に10時の開店と同時に入ってさっぱりします。道の駅で土産を買ったり、ソフトクリームや唐揚げを買ってその場で食べます。昼にはキャンプ場に戻って、お昼ご飯にヨモギ餅。みんなで餅つきをしてつきたてをいただきます。

皆さんのおかげでとても楽しいキャンプになりました。夏のキャンプでお待ちしています。



<令和5年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成を受けて開催しました。>